

第七十回 大磯西行祭募集要項

献詠俳句

【題】

雑詠二句まで（未発表の作品に限る）

【部門】

一般の部・小学生の部・中学生の部・高校生の部

献詠短歌

【題】

自由二首まで（未発表の作品に限る）

【部門】

一般の部・小中学生の部・高校生の部

献詠俳句・短歌共通

【募集期間】

令和八年十月一日（木）から十二月十八日（金）まで（必着）

応募方法

【電子応募】

電子投稿 嶋立庵HP内「西行祭献詠俳句・短歌募集ページ」より

【用紙応募】

所定の応募用紙に楷書で作品（力大）・住所氏名又は雅号（ふりがな付記）・電話番号・小中高生は学校名と学年を必ず記入のこと

応募先

〒255-0003

神奈川県中郡大磯町大磯1289 嶋立庵



嶋立庵だより

嶋立庵とは、江戸時代から続く俳諧道場でございます。初代庵主大淀三千風が開き、現在では京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場と呼ばれているといわれるよ。



嶋立庵大使「えんいくん」

今月の俳句 1

砂浜の砂を掬えば 秋の風

茨城県立結城第二高等学校

本多 健一

今月の短歌

妹の書いた書道の「優しさ」が
ちよびっとくたびれて十二月

神奈川県立光陵高等学校

柳原 萌々子

今月の俳句 2

季題は「秋の風」。秋吹く風である。
「春風は朝に寒く、秋風は夕に寒し」という諺もある。一人砂浜で「砂を掬う」気分は、寂寥感の極みと言えよう。

嶋立庵庵主 本井 英

教室に 風鈴つるす 友の居て

茨城県立結城第二高等学校

萩原 煌天

季題は「風鈴」。軒端を過ぎる風に揺られて、美しい音色を奏でる。学校の教室に「風鈴」を吊るす「友」は、一寸変わった人物かもしれない。

嶋立庵庵主 本井 英

書き初めが入選したのでしょか。大きな「優しさ」が飾ってあったのですが、十二月にもなるとさすがに紙もくたびれてきます。優しすぎる妹さんもすこし気疲れして、それを氣遣う作者の視線も含まれているのかもしれない。下の句の「ちよびっとくたびれて十二月」は、「句またがり」と言います。「くたび」の「び」にアクセントを置いてシンコペーションするように読むと、とても気持ちのよいリズムです。

（西行祭選者 斎藤 斎藤）